

## インターンシップ報告

大阪大学大学院工学研究科  
生命先端工学専攻  
宮田研究室 D1 重光孟

私は2011年1月7日から2月18日にかけての43日間、アーヘン工科大学のAlbrecht Groupをインターン生として訪問した。わずか1か月半の研修ではあったが、現地では様々な経験を積むことができた。

アーヘン工科大学ではProf. Albrechtの専門であるヘリカル錯体についての研究を行った。英語が不得手で、錯体合成についても経験のない私は不安いっぱい現地に向かったのだが、指導してくれた学生(Ms. Elisabeth Isaak)が非常に丁寧かつ辛抱強く教えてくださったので、最終的には一通りの実験を一人でこなせるようにまでなった。前半は慣れない場所ということもあり、たびたび失敗やミスをしてしまった。その上、その失敗を拙い英語でしか説明できず、研究室の皆様には本当に迷惑をかけたと申し訳なく思っている。同時に、そんな私にとっても親切にくださった皆様に心から感謝している。

研究面だけではなく学生との交流が私にとって大いにプラスになったと感じている。アーヘン工科大学は様々な国から積極的に学生を受け入れており、Albrecht Groupでも多様な国籍の学生(ドイツ、ロシア、中国、スペイン、インド)が在籍しており、交流を図ることができた。そのため、多くの国の文化や風習について活きた知識を得られた。また、学生と交流していく上で、日本の文化を紹介する機会が多々あった。そのような経験を通じて私自身も日本という国を初めて客観的に見ることもできた。

今回のインターンは有機化学や錯体化学、海外の研究スタイルに関する知識を深めることができただけでなく、外国の方々との交流や理解を深めることができたという点で非常に有意義であった。今後はインターンの恩返しの気持ちも込めて積極的に海外と交流し、良い関係を築けるように努めていきたい。



Albrecht group 集合写真